

ウィズコロナの時代を生き抜く力

The Power to Survive in the Age of Living with COVID-19.

佐藤 実芳 (Miyoshi SATO)

はじめに

新型コロナウイルス感染症対策本部が 2020 年 2 月 27 日に、全国の小中学校と高等学校、特別支援学校へ 3 月 2 日からの臨時休校を要請した。同年 4 月 7 日には、最初の緊急事態宣言が発出され飲食店などに対する休業措置が取られた。経験のない突然の事態に誰もが混乱し、街からは人の姿が消えて今日まで続くコロナ禍が始まった。その後も新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に応じて、緊急事態宣言が 3 回発出された。第 4 回目の緊急事態宣言が 2021 年 9 月 30 日に解除され、それ以降現在 (2023 年 1 月 20 日) に至るまで緊急事態宣言は発出されていない。しかし、新型コロナウイルスは変異を繰り返し、2022 年 1 月には第 6 波に見舞われ、まん延防止等重点措置が適用されることになった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が繰り返され、終息を期待することができない状況が続くなかで、新型コロナウイルス感染症の感染終息ではなく、共存・共生を目指すウィズコロナの時代に移行した。政府が発信した「新しい生活様式」のもと、通常の日常生活が手探りで始まっている。日本では 2022 年夏に新規感染者数が 1 日最大 26 万人 (8 月 19 日)¹⁾ を超える第 7 波を迎えたが、以前とは異なり、緊急事態宣言もまん延防止等重点措置も発出されることなく、ウィズコロナを目指して行動制限のない日常生活が続いている。そして 2022 年 11 月から始まった第 8 波により、新型コロナウイルス感染症による新規感染者及び死亡者が増加している。

コロナ禍の影響で各地の祭事の多くが 2020 年から実施されなくなった。しかし、ウィズコロナの時代となった 2022 年は、各地の祭事が徐々に開催されるようになった。例えば春の高山祭は、4 月 14、15 日に全ての行事が実施された。新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、祭事を中止又は大幅に変更して実施されたケースもあった²⁾ が、多くの祭事が予定通りに開催されている。開催の場合には新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が採られ、伝統的な祭事にも工夫が凝らされるようになった³⁾。

地域の祭事には、単に儀式を行うだけでなく、その準備なども含めた一連の行事を含めて地域の絆を深め、人との結びつきを強くする役割がある。特に核家族化が進行し、地域社会との繋がりが希薄な現代の子どもに対して、祭事が果たす教育的な意義は大きい。本稿では、三重県桑名市の石取祭を例に、いつ終息するかわからない新型コロナウイルス感染症と共存・共生しなければならないウィズコロナの時代において、伝統文化の継承と祭事の開催により未来を生き抜く力を培うことの意味を考える。

ウィズコロナの時代の石取祭

桑名の石取祭は江戸時代から続く春日神社（桑名宗社）の祭礼で、2016年には「桑名石取祭の祭車行事」が「山・鉦・屋台行事」の一つとして、ユネスコの無形文化遺産に登録されている。石取祭はコロナ禍で2年間、神社祭礼のみとされ、2022年の夏に3年ぶりに祭車曳廻しを含めて開催された。

開催の経緯に関しては、桑名石取祭保存会会長が『広報くわな』（2022年7月号）に、以下の様に記している。

このまま曳廻し^{ひきまわ}の休止が続けば次世代へ継承することが難しくなり、途絶えてしまうことも懸念されます。そこで今年は、感染症対策を十分に行った上で、石取祭の決行を予定しています。桑名から全国へ石取祭を通して元気を届けられたらと思っています。

石取祭は、試楽や本楽だけの行事ではなく、町のつながりを維持する、コミュニケーションの場としても機能しています。石取祭があるからこそ町内の人たちとの関わり合いが生まれ、町全体が結束しています。

コロナ禍で祭車曳廻しを実施しなかった2年間は、祭車曳廻しの際に奏でる太鼓と鉦の練習及び例年海の日である7月第3月曜日に開催されていた石取祭ばやし優勝大会も中止とされた。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、以下の項目が『広報くわな』（2022年7月号）に公表された。

【祭り参加町などの対策】

- 祭車曳廻しについては、各町内の立地状況・集会所設備の状況・行事人員の構成などに十分配慮して実施する。
- 集会所の抗菌処理・空調設備などを進める。
- 手指消毒器具の設置を行う。
- 集会所や祭車に一般客を入れない。

【祭りの参加者】

- ワクチン接種済み・またはPCR検査か抗原検査での陰性を確認する。
- 原則、従来からの参加町並びに参加者のみで構成する。
- 小学生以下の児童や、重症化リスクの高い高齢者および持病のある人の参加は慎重な対応を促す。
- まつり囃子の練習は絶対に密を避け、毎日の検温と健康状態を確認する。
- 祭りの1週間前から健康チェックシートにより自己管理を行う。
- 節度ある適度な飲酒に心がけ、歩きながらの飲食・飲酒は禁止とする。

2022年度の石取祭の主なスケジュールは以下の通りであった。

6月 5日 御籤占式^{みくじ}

本楽の「渡祭」（各町の青年会が春日神社に鼓鉦を披露する石取祭のクライマックス）の順番を決めるための行事

7月17日 川原^{はらい}祓式

町屋川の川原で、栗石を拾うための行事

7月18日 石取祭ばやし優勝大会

石取祭の保護・後継者育成のため、鼓鉦の囃子を競う。

8月 5日 おかつあん

石取祭の安全を祈願して、氏神様などを参拝する。

8月 6日 試楽

午前0時に各町の鼓鉦が一斉に奏でられる「叩き出し」から始まり、組別に組内を祭車が練り歩く。

8月 7日 本楽

午前2時の叩き出しがある。午後5時に全祭車が整列し、午後6時30分から春日神社で渡祭⁴⁾が始まる。

新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、石取祭を実施する際の運営方法に関して、以下の3点について大幅に変更がなされた。

① 夜の「おかつあん」（町練り）の中止

夕方と夜の2回、実施されていた少年少女会⁵⁾の「おかつあん」を、夕方のみに限定した。夕方の「おかつあん」は、少年少女会が“おかつあん”という石取祭の歌を歌いながら組内⁶⁾の神社を参拝して、石取祭の安全を祈願するものである。夜の「おかつあん」は、少年少女会が町内を“おかつあん”を歌いながら練り歩く。従来は2回行われていた「おかつあん」の夜の部が中止にされた。

マスクをつけて歌を歌いながら歩くことにより、体力が消耗し熱中症の危険が伴う。少年少女会は0歳児も入会しており、幼い子どもには負担が大きいと考えられる。また、集合回数を減らすことで密になる場面が少なくなり、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを減らすことができる。

② 試楽の曳廻しの規模の縮小

叩き出しは例年通りの実施であったが、組別で実施される試楽の曳廻しに関しては、各組ごとに実施するかどうかを決めるように要請された。2022年度は休祭を選択した町も多く、小規模で実施することができるようにしたといえる。

③ 本楽の様々な変更

第一に、渡祭に臨む祭車の所定場所への整列時間を従来の15時30分から17時に変更して、渡祭までの待機時間を短縮した。整列場所も500mほど春日神社に近い場所にして、祭車を曳

き回す距離を短くした。

第二に、本楽の祭車のルート等を変更した。従来は春日神社とその鳥居の間にある道を通り、神社の前で祭車が直角に方向転換していた。しかし、2022年度は道を変更して鳥居前で方向転換して鳥居をくぐって春日神社に直進することで、渡祭直前の混雑の緩和に努めた。石取祭のクライマックスともいえる渡祭は見学者が最も多く集まり、新型コロナウイルス感染症の感染の可能性が高くなる。そのための工夫である。

第三に、渡祭後に通常は22時頃から始まる、祭車が田町交差点で4台ずつとどまり鼓鉦を奏でてから各町に帰る「曳別れ」を、例年見学者が多く集まるために中止にした。

新型コロナウイルス感染症の感染防止策として、見学者にも以下の2点が要請された。

① 渡祭の見学者密集防止策

石取祭のクライマックスといえる春日神社前の渡祭の様子を、自宅等においても鑑賞できるように、「ラッキータウンテレビ（三重県桑名市に本社を置くケーブルテレビ局）」が、18時より今回参加した全ての町の渡祭が終了するまで放送した。また、19時から20時にBS11・三重テレビ共同放映により「日本一やかましい祭り 石取祭 ～鉦や太鼓がふたたび鳴り響く、桑名の夏～」が放送された。スマホ・タブレットからもみることができるよう、Youtubeライブ放送も実施された。

② 食べ歩き自粛の徹底

見学者等の食べ歩きの機会を減らすため、目抜き通りに出店する露天商に出店自粛を要請し、地域の商店にも軒先で飲食物を販売しないように依頼した。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策ではないが、2022年度は初めて県内外の個人からの協賛金を募集した。従来は、協賛金は事業所からしか募っていなかったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により経営が厳しくなっている事業所があり、今まで通りの協力が得られる保証がなかったための新しい試みであった。

石取祭の実際

2022年度の石取祭は、以下のように実施された。

① 参加状況

例年は40台前後の祭車が参加するが、2022年度は27台の参加にとどまり、約1/3の町が休祭を選択した。密になる可能性が否定できない祭であるため、感染防止のために参加を見合わせる町が多かったといえる。

ウィズコロナといわれても、感染の可能性はできるだけ避けたいと考えるのは自然である。石取祭では、できる限りの感染防止対策を講じるとはいえ、感染を確実に回避できるという断言はできない。石取祭の特色から、参加者が飲食を共にする機会も多く、密になる場面もある。

飲酒を伴う祭でもあり、2022 年度の実施において屋外の飲酒は禁止されたものの、飲酒自体が禁止されたわけではなかった。今年度は休祭して実施状況を確認し、来年度から参加するかどうかを判断したいと考えた町も多かったと推測される。

② 参加者

歩きながらの飲食は見られず、食事が必要な場合には、間隔をあけて座り黙食が徹底されていた。屋外での飲酒はなく、大人もソフトドリンクかノンアルコールビールを飲んでた。町により、一切飲酒をしていないところもあった。参加者のマスク着用も徹底していた。ただし、「渡祭」に関しては、マスクなしで鼓鉦を奏でた参加者もあった。

③ 見学者

例年より見学者が少なく、密になる場所もほとんど見かけられなかった。見学者のマスク着用も徹底されていた。

④ 渡祭

渡祭のルートが変更されたため、渡祭の方法が町により 2 パターンに分かれた。従来は、春日神社前で直角に方向転換するために、神社前の所定の位置に留まるまで一旦鼓鉦を奏でるのをやめ、「おかつあん」などの歌を歌い、祭車が所定の位置に留まると青年会会員が一斉に鼓鉦を奏でた。鳥居をくぐってから神社前の所定の位置に移動するルートを採った 2022 年度は、従来通り所定の位置に留まるまで鼓鉦を奏でるのをやめるという祭車が多かった。少数ではあったが、鳥居をくぐるところから青年会が鼓鉦を奏で続けた祭車もあった。鳥居からは前進のみなので、鼓鉦を奏でることに支障はなく、筆者にはとても新鮮に感じられた。

他の地域の石取祭

石取祭は、桑名市内の他地域でも開催されている。また、桑名市以外の三重県内及び県外でも石取祭は存在する。以下が、県内の他地域の石取祭の開催の状況である。

① 松原の石取祭（三重県四日市市）

松原の石取祭の正式名称は、聖武天皇社例大祭である。同祭も 2 年の休祭を経て、2022 年 7 月 15 日～17 日に開催された。2022 年度は、以下の日程で実施された。

7 月 15 日（金）宵・宵宮神事、叩き出し

16 日（土）新楽

17 日（日）例大祭神事、本楽

② 神戸の石取祭（鈴鹿市）

神戸の石取祭も 2 年の休祭を経て 2022 年 7 月 29 日～31 日に開催された。2022 年度は全

祭車 8 台が参加し、例年通りの以下のスケジュールで実施された。

7 月 29 日（金） 20 時 30 分～	叩出し
7 月 30 日（土） 20 時～	神戸宗社前総叩き
7 月 31 日（日） 18 時～	渡祭巡行開始
19 時～	花車渡祭開始

③ 川越の石取祭（川越町）

川越の石取祭も、2 年の休祭を経て 2022 年 7 月 30 日～31 日に開催された。検温スペースを設けるなどの新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が講じられた。

④ 富田の石取祭（三重県四日市市北部）

富田地区の石取祭は祭車が 3 台（北村石取祭・茂福石取祭・富田西町石取祭）で、2 日間の町練巡行の後、最終日に 3 車連合石取祭車巡行が行われる。富田地区も 2 年間すべての行事を中止にしてきたが、伝統の継承を目的に 2022 年度は 8 月 13 日～15 日の日程で実施された。

⑤ 桑名市赤須賀神明社の石取祭

赤須賀神明社の石取祭も 2 年の休祭を経て 2022 年 8 月 14 日～16 日に開催された。例年は 6 地区が参加するが、2022 年度は 1 地区が休祭を選択して 5 地区の参加で実施された。2022 年度は、神明社まで祭車を曳き回して鼓鉦を奏でて奉納する「渡祭」のかわりに、16 日夜に神明社の神職が各地区を訪問して祭車の前でお祓いをするという形式に変更された。

⑥ 天ヶ須賀の石取祭（三重県四日市市富洲原）

天ヶ須賀の石取祭も 2 年間の休祭を経て、2022 年 8 月 14 日～15 日に開催された。

⑦ 桑名市長島町の石取祭

長島町の石取祭は例年 7 月最終金曜日と土曜日に、3 町（長島萱町、長島中町、長島下町）で開催するが、2022 年度は 7 月 30 日（7 月最終土曜日）に長島下町のみ祭車庫前で飾り付けが行われた。

ウィズコロナ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、三重県桑名市の石取祭は 2 年間休祭した後、2022 年に 3 年ぶりに開催された。祭前の 7 月 13 日～18 日に参加町内で鼓鉦の練習が行われたが、鼓鉦の奏で方を忘れている子どもも少なくなかった。マスク着用の練習のため、大人も今までとは勝手が異なり、特に高齢者は長時間継続して鼓鉦を奏でるのは難しかった。2022 年度の石取祭における一連の行事の開催は伝統の継承が主たる目的とされたが、これ以上休祭が継続すれば、祭事の運営方法や鉦鼓を奏でる技術など様々な面で支障が生じ、今後の石取祭

の開催が困難になった可能性もある。新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めて、社会一般の活動と両立させる「ウィズコロナ」の必要性を、石取祭の開催からも痛感した。

2022年度の石取祭では、約 1/3 の町が参加を見送った。新型コロナウイルス感染症の感染が終息していない状況で、休祭を選択するというのも決して間違った判断ではない。感染対策を講じるとはいえ 100%感染を防止できるとはいいきれず、そのような状況では、積極的な参加を促すことはできない。今年度の開催にあたっては、各町内が熟慮の上で参加するか否かを判断したことは想像に難くない。

『朝日新聞』の「カフェ日和」(2022年6月19日 朝刊 三重県版 10面)に、芸能史研究家前田憲司が、「3年ぶりまつり はめ外さずに」に、石取祭を含めた夏祭のコロナ対策に関して以下のように記した。

子どもたちは教育現場で徹底され、意識も高いようだが、久しぶりの開催に、イイ大人がはめをはずしてしまわないかちょっと心配。私も含めて、自戒自戒。

事前の懸念とは異なり、実際の石取祭は粛々として行われていた。参加した町だけでなく見学者も感染防止対策を守り、厳粛な雰囲気すら醸し出していた。大人には飲酒が付き物の祭ではあったが、飲酒なしで参加した町もあることは、予想していなかった。渡祭の際に参加者が肩を組んで声を発し鼓鉦を盛り上げるのが恒例であるが、肩を組むことなく常に間隔を取っていた町もあった。

本楽の渡祭の際、蠟燭ではなく松明を焚き、炎と煙をあげて荘厳で神秘的な雰囲気の中で春日神社の前に進んできた祭車があった。太鼓の叩き手は短時間で交替して、参加者全員で全身全霊を込めて鼓鉦を奏でる渡祭の様子に、筆者は石取祭を3年ぶりに開催できた喜びとともに新型コロナウイルス感染症に勇ましく立ち向かう姿勢を感じる事ができた。肩を組むことで密になることを否定することはできないが、鼓鉦を奏でる音も他の祭車より際立って大きく感じられた。ウィズコロナで様々な制約のある中、最大の工夫を凝らして楽しむことこそ、これからの時代を生き抜く力に繋がると考えられる。

参加した各々の町が新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に知恵を絞り、祭の演出を競った2022年度の石取祭は、ウィズコロナの時代であっても伝統文化を継承しなければならないという使命感を強く感じさせるものであった。

終わりに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大も3年目となったが、今なお終息する気配がない。特效薬も開発されておらず、しばらくは新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めつつ、社会生活を送る日々が続くと予想される。

今までは、感染防止が最優先され、感染の可能性のある行動は避けるように政府が指導してきた。学校も一時休業となり、祭をはじめ様々な行事が中止される2年間が続いた。しかし2022年になり、政府の新型コロナウイルス感染症に対する考え方も「ウィズコロナ」に変化

した。過去 2 年間のよう感染防止を最優先するのでは社会生活が沈滞してしまう。伝統文化の継承も途切れてしまう。試行錯誤の段階ではあるが、ウィズコロナの時代の新しい生き方を私たち自身が模索する必要に迫られている。

ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者には後遺症が残るケースも多く、できる限り感染は避けたいところである。特に基礎疾患のある人や高齢者の方は生命に関わる事態を招きかねないため、より注意が必要である。また、医療従事者や福祉施設の勤務者などのエッセンシャルワーカーを中心に、今回の石取祭の参加を自主的に控える人がいることも考えられうることであった。

しかし、徹底した感染防止策で新型コロナウイルス感染症の感染リスクを下げるだけでは、私たちの日常生活を守ることにはできない。人との接触を制限されてきた 2 年間、今まで通りの生活を過ごすことができなかつた子どもたちの成長が不安視されている。石取祭では、子どもたち同士の触れ合いや連帯感を構築するだけでなく、同じ町の大人の人に見守られて安心して活動し、何か問題行動があつた場合には町の大人に注意されることで、社会性が身に付くと同時に大人の社会に徐々に馴染んでいくことができる。石取祭は単なる伝統文化の継承だけでなく、子どもたちが人間として成長することができる場でもある。その貴重な教育の場を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が子どもたちから奪ってきた。

ウィズコロナで私たちは、自らの行動をこれから選択していくことになる。その選択がどのようなものであるかにより、将来の生活が変わっていく可能性が大いにある。感染防止は重要であるが、新型コロナウイルス感染症の終息が予測できない今日、新型コロナウイルス感染症に立ち向かいブーカ時代⁷⁾をたくましく生き抜く力が、私たち一人一人に試されている。

注

- 1) 厚生労働省 HP「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向 報告日別新規陽性者数 2023 年 1 月 22 日 0 時時点」<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001041567.pdf> (2023 年 1 月 23 日取得)
- 2) 沖縄全島エイサーまつりは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び県内医療の逼迫状況を理由に延期された。葵祭は、出演者及び関係者、観覧者への感染防止を理由に一部(路頭の儀・禊の儀)を中止し、社頭の儀等は関係者のみで実施した。長崎くんちも、感染拡大防止を理由に中止された。
- 3) 祭事開催の際には、公益社団法人日本青年会議所が交付した『祭り・イベント等開催に向けた感染拡大防止ガイドライン』(2020 年 12 月 5 日)が活用されている。
- 4) 渡祭とは、祭車が神職と神社役員の待つ春日神社前に進み番号札を神職に渡し、鼓鉦を打ち鳴らして参拝しお祓いを受けて退出するという儀式である。花車と呼ばれる最初の祭車を先頭に、予め決められた順に各祭車が 18 時 30 分から順に渡祭する。
- 5) 中学生までが所属する会で、町により「少年会」など名称は異なる。
- 6) 石取祭を開催する町は、地域により 11 組に分かれている。各組は、隣接する 2 町から 6

町で構成されている。

- 7) VUCA は、4つの単語【V (Volatility: 変動性)、U (Uncertainty: 不確実性)、C (Complexity: 複雑性)、A (Ambiguity: 曖昧性)】の頭文字をとった造語である。先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味する。

参考資料一覧

1. 川越町役場企画情報課「広報かわごえ」2022年9月号。
<https://www.town.kawagoe.mie.jp/kouhoupdf/kawagoe585/all.pdf> 2022年11月1日取得。
2. 神戸石取祭 HP <https://www.kambe-ishidori.com/home> 2022年11月1日取得。
3. 桑名市役所秘書広報課広報広聴係『広報くわな』2022年7月号。
4. 聖武天皇社 HP 「松原の石取祭」<https://shomutenosha.com/#isidori> 2022年11月1日取得。
5. 富洲原地区市民センター「とみすはら」2022年7月5日号。
http://tomisuhara.sakura.ne.jp/sblo_files/tomisuharahp/image/E4BBA4E5928C4E5B9B47E69C885E697A5E58FB720-2E69E9AE7B5842020.pdf 2022年11月1日取得。
6. 富洲原地区市民センター「とみすはら」2022年7月20日号。
http://tomisuhara.sakura.ne.jp/sblo_files/tomisuharahp/image/E4BBA4E5928C4E5B9B47E69C8820E58FB7.pdf 2022年11月1日取得。
7. 富田地区市民センター「回覧 とみだ」2022年8月20日号。
<https://tomida.org/kairan/pdf/Kairan340820.pdf> 2022年11月1日取得。
8. 富田地区 HP 「石取り祭り」<https://tomida.org/maturi/newisidori.html> 2022年11月1日取得。
9. 『中日新聞』「3年ぶり 太鼓と鉦打ち鳴らす 赤須賀神明社の石取祭 桑名」2022年8月18日 朝刊12面。
10. 『中日新聞』「華やか祭車勢ぞろい 3年ぶり神戸石取祭 鉦や太鼓にぎやかに」2022年8月2日 朝刊12面。